

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第7部門第4区分
 【発行日】平成19年1月11日(2007.1.11)

【公表番号】特表2006-509490(P2006-509490A)

【公表日】平成18年3月16日(2006.3.16)

【年通号数】公開・登録公報2006-011

【出願番号】特願2004-570298(P2004-570298)

【国際特許分類】

<i>H 02 N</i>	<i>2/00</i>	<i>(2006.01)</i>
<i>H 04 R</i>	<i>1/00</i>	<i>(2006.01)</i>
<i>H 04 R</i>	<i>1/02</i>	<i>(2006.01)</i>
<i>H 04 R</i>	<i>17/00</i>	<i>(2006.01)</i>
<i>H 01 L</i>	<i>41/09</i>	<i>(2006.01)</i>
<i>H 01 L</i>	<i>41/187</i>	<i>(2006.01)</i>
<i>H 01 L</i>	<i>41/22</i>	<i>(2006.01)</i>

【F I】

<i>H 02 N</i>	<i>2/00</i>	B
<i>H 04 R</i>	<i>1/00</i>	3 1 0 F
<i>H 04 R</i>	<i>1/02</i>	1 0 2 Z
<i>H 04 R</i>	<i>17/00</i>	
<i>H 01 L</i>	<i>41/08</i>	M
<i>H 01 L</i>	<i>41/18</i>	1 0 1 D
<i>H 01 L</i>	<i>41/22</i>	Z
<i>H 01 L</i>	<i>41/08</i>	U

【手続補正書】

【提出日】平成18年11月13日(2006.11.13)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

湾曲した短軸に沿って延在する連続的な電気活性部材を有する電気活性装置であって、該連続的な電気活性部材が、短軸の周囲で湾曲し、起動時に短軸の周囲で屈曲する電極が配置構成され、それによって装置の部分が湾曲の面から相対的変位するのに伴い、短軸の周囲で捻れ、短軸が、2つの区間の間の点を中心とする回転対称性を有する反対の曲率の2区間を有する曲線であって2つの区間の間の前記点で曲率が1回変化する曲線を辿る電気活性アクチュエータ。

【請求項2】

連続的な電気活性部材が、螺旋の短軸の周囲で湾曲する、請求項1に記載の電気活性アクチュエータ。

【請求項3】

アクチュエータが、2つの区間の間の前記点で第1対象に、前記2つの区間の対向する端部で第2対象に装着される、請求項1又は2に記載の電気活性アクチュエータ。

【請求項4】

曲率が反対の前記2つの区間が、円の有意の区間である、請求項1から3いずれか1項に記載の電気活性アクチュエータ。

【請求項 5】

対象を直線で動作させるような構成である電気活性アクチュエータであって、前記アクチュエータがジョイント部材によって2つのアクチュエータ区間を含み、前記アクチュエータ区間がそれぞれ、湾曲した短軸に沿って延在する連続的な電気活性部材を有し、該連続的な電気活性部材が、短軸の周囲で湾曲し、起動時に短軸の周囲で屈曲する電極が配置構成され、それによって装置の部分が湾曲の面から相対的変位するのに伴い、短軸の周囲で捻れ、前記アクチュエータ区間が前記接合要素を中心として回転対称で配置構成される電気活性アクチュエータ。

【請求項 6】

アクチュエータ区間が基本的に同一である、請求項5に記載の電気活性アクチュエータ。

【請求項 7】

連続的な電気活性要素が、螺旋状に短軸の周囲で湾曲する、請求項5または6に記載の電気活性アクチュエータ。

【請求項 8】

接合区間が異種材料を有する、請求項5から7いずれか1項に記載の電気活性アクチュエータ。

【請求項 9】

接合区間が、1方向を除く全てで比較的剛性であるような構成である、請求項5から8いずれか1項に記載の電気活性アクチュエータ。